

令和6年度第3回第4次子どもかがやきプラン推進委員会の報告について

1 開催日時

令和7年1月29日（水） 10:00～12:00

岐阜県庁 3階会議室にて開催

2 概要

「第4次子どもかがやきプラン アクションプラン2025」（案）の施策内容及び特別支援教育における課題及び取り組むべきことについて、意見を聴取した。

3 委員から出された主な意見

- ・大垣特別支援学校、東濃特別支援学校のように、児童生徒数が増加していて、教室等が不足している等、状況が切迫しているところについて検討いただけることはありがたい。
- ・特別支援学校設置基準を満たすことだけではなく、子どもたちの学びが安心で安全な環境になるように進めていただきたい。
- ・予算の関係もあると思うが、学習環境の改善が必要であるならば、積極的に修繕等を行っていただきたい。
- ・郡上特別支援学校1校舎体制について、検討が進んでいくとのことであるが、新しい知事になられた時も、後戻りすることなく進めていくことを強くお願いをしたい。
- ・各学校の学習環境の整備について、現場の意見を聞きながら検討していただけると、保護者も安心感を得られると思うため、検討いただきたい。
- ・高等特別支援学校機能整備に関しては、開校している3校の検証をしながら、次のステップに進められており、今後の整備がよいものになるだろうという期待している。
- ・高等特別支援学校機能について、東濃地域と飛騨地域には設置されていないため、各地域にあるといいという声が強くなる。ぜひ、もう1歩進めて整備ができる方向に進めていただきたい。
- ・スクールバスについては、各校の乗車希望者数や車いす数に応じた整備が進められており、大変ありがたい。
- ・高校通級について、成果が上がっている。ただ、高等学校の中で定着しているわけではないため、管理職はじめ教員への研修は今後必要になってくる。また、中学校との連携を強化して、高等学校における通級の指導形態や内容を伝えていく必要がある。
- ・弱視通級があることによって、小・中学校の先生にとって盲学校との連携がしやすくなり、視覚に困難さがある子ども、読み書き障がいのある子どもの相談をするきっかけにもなる。ぜひ進めていただきたい。
- ・聴覚については、飛騨地域にも定着してきて、期待されている状況があり、県の事業として位置づけていただけるということは大変心強い。
- ・就労支援に関して、学校の先生たちが実際に企業に行って企業がどういう人材を求めているかということを感じていただくことも必要である。
- ・入院高校生の遠隔教育において、オンデマンド型授業のやり方を周知するためにガイドブックを作成して配布していくことについては大変ありがたい。

- ・交流及び共同学習について、毎年、より実施しやすい方法を提案してもらいたい。
- ・特別支援学校高等部の作業学習は、週に何時間も取り組むものであり、学習の中心となる内容であるため、職業教育担当者会での授業参観や情報交換はすごく有意義なものになると思う。
- ・就労支援コーディネーターは、高等特別支援学校機能のある学校のみ配置されているが、非常にいい制度であるため、できれば各学校に配置できると継続的な就労支援に繋がると思う。
- ・本人にとっては、卒業した後の人生の方が長いため、卒業後の人生につながる教育であってほしい。そのために、特別支援学校のセンター的機能が十分活用されるとよい。
- ・小・中学校、高等学校の管理職を対象とした研修で、実際に保護者や特別支援教育の経験のある管理職の話を聞ける場があることはありがたい。
- ・校内教育支援委員会で望ましい就学先を検討する際に、特別支援学校の教員から助言をもらえるような仕組みがあるといい。
- ・小・中学校、高等学校の先生方の特別支援教育に関する専門性をより高めていく必要があるため、広い範囲を対象とした研修を検討していただきたい。